その十二

嶺村法子

春、弥生。いよいよ二十三人の子どもたちが幼稚園を巣立つときが来ました。

小学校と併設である私たちの幼稚園では、修了児のほとんどが、そのまま同じ敷地内の小学校に入学します。とはいえ、修了式は大事な区切りの儀式ですから、大勢のご来賓、保護者が参列し厳かに執り行われます。

式場に入場する子どもたちの顔は、晴れがましさと緊張感に満ち、紅潮して輝いて見えます。園長先生から修了証書をいただいた後、三年間の様々な思い出を一人ひとりが言葉にして、みんなで「お別れの言葉」を言いました。

子どもたち一人ひとりの思いを汲みながら、たくさんの〝楽しかったこと〟〝がんばったこと〟〝一年生になったらやってみたいこと〟をつなぎ合わせた「お別れの言葉」―その印刷物を読み返してみて、改めて気付いたことがありました。それは、この連載で取り上げてきたこと、すなわち担任である私の心に残った出来事が、子どもたちの心にも同じように印象的な出来事として記憶され、子どもたちの言葉で語られていたということでした。

この連載の最後にあたり、修了式での「お別れの言葉」を引用し、今の私の思いを加えながら年長組の一年間を振り返りたいと思います。

期待に満ちた年長組の一学期
隅田川テラスを歩きながら口ずさんだ歌
♪『ぽかぽか　てくてく』

TO・NI・KARA ひろば

「たんぽぽ組から　うみ組になりました」
「めぐみ幼稚園から月島第一幼稚園に来ました。友達がたくさんできてうれしかったです」
「お母さんと一緒に、浜離宮の遠足に行ったのがおもしろかったです」
「トリムスポーツセンターで、魔女から手紙とアメをもらっておいしく食べながら帰りました」
「一輪車にのって四人で手をつないで回りました。何度も練習してできるようになりました」

遠足から始まった魔女との手紙のやりとり
修了式当日にも励ましの手紙が届けられ
「さっき屋根の上に魔女がいた」
「カラスも来ていた」
と大騒ぎ

内緒だけれど
あなたたちが魔女に宛てた
たくさんの手紙は
今でも時々私の引き出しの中から顔を出し
あの日へと連れ戻してくれる

♪『みずでっぽう』
「うみ組だけで葛西臨海公園に遠足に行きました。貝をいっぱいとったのが楽しかったです」
「ひよこ組の時は水が嫌いだったけど、浮き輪につかまって泳げるようになりました」
「月一園で大きなキュウリとナスをとって、月一カレーを作ったのがおいしかったです」

たくさんの野菜を育てた月一園
元小学校のプールだったこの畑は

TO・NI・KARA ひろば

隣接の区立公園と一緒に
改修されることになった
公園の落ち葉を鋤き込み
何年もかけて土づくりをしてくださった
地域の協力者の働きかけで
公園の一角に月一園は残されることになった
新しく生まれ変わる月一園で
新三年生として
理科の学習ができる日も近いはず

たくさんの行事があった二学期は
子どもたちの口からも
たくさんの思い出が語られた

♪『運動会』

「運動会で、小学生と一緒に月一ボール体操をしました」

「忍者になって手裏剣をとばしたのが楽しかったです」

「芋掘り遠足で大きなお芋を掘って食べました。四年生とお芋パーティーをしました」

「みんなで力を合わせて〝わくわくオリンピック〟をしました。私は赤組の応援団長をやりました」

「リレーの時、赤組のアンカーなってゴールしたのがうれしかったです。一回目は赤組が勝って、二回戦は白組が勝ちました」

「〝わくわくギャラリー〟で、風船の人形を作りました。紙をぺたぺた貼るのをがんばりました」

「割り箸ペンで、大きな自転車の絵を描きました」

「みんなで、おかしの家を作りました」

「〝うみぐみランド〟の入り口の滑り台が楽

TO・NI・KARA ひろば

しかったです。ぼくは、風船バレーをやりました」

「おもちつきが楽しかったです。きな粉のおもちがおいしかったです」

忍者たちの〝忍法並びの術〟
遊戯室いっぱいに飾られた風船人形
魔女からもらった魔法の絵の具と
割り箸ペンで描いた絵……
ひとつひとつの場面が
今も鮮やかによみがえる

そして三学期
幼稚園生活の集大成

「〝うみぐみ双六〟を作りました。友達とサイコロを振って遊んだのが楽しかったです」

♪『おかしがすき』

「楽しかった子ども会」

「みんなで『おかしがすきなうみ組探検隊』の劇を作りました」

「探検隊とカラスをやったのが楽しかったです」

「クシコスポストの合奏で、木琴をがんばりました」

「一年生と給食を食べたのが楽しかったです。ドライカレーがおいしかったです」

「雛祭りのお茶会でお茶をたてたのが楽しかったです。ドキドキしたけどがんばりました」

カラスからの手紙に導かれ
お菓子の家を探し歩く『うみ組探検隊』は
遠足での魔女との出会い

TO・NI・KARA ひろば

運動会で取り組んだ忍者
〝わくわくギャラリー〟でのお菓子の家作り
みんなつながって
劇遊びが得意でなかった私に
一緒に作りあげていく楽しさを
味わわせてくれた

「お別れの言葉」を考えながら
子どもたちは
ちょっと前の自分と今の自分を比べ
あんなこともこんなことも
できるようになったと気付いた
そして自分の言葉で
ちょっと先の未来への希望と
学ぶことへの意欲を語った

「ぼくは、コマを何度も練習して、お皿の上で回せるようになりました」
「私は、竹馬をがんばって練習したら、乗れるようになりました」
「私は、大縄で七十二回飛べるようになりました」
「私は、一年生になったら、音楽で歌ったり合奏したりするのが楽しみです」
「ぼくは、ひらがなを全部書けるようになりたいです。宿題もがんばります」
「私は、小学校の大きいプールで遊ぶのが楽しみです」
「ぼくたち私たち、元気な一年生になります」

小さい組の友達や保護者の方々が歌う
まどみちお作詞『おおきい木』の歌に送られ
式場を後にする子どもたち
その一人ひとりに

TO・NI・KARA ひろば

園長先生から小さな花束が手渡される
そして

▲修了式が終わり、緊張感から解き放たれた笑顔・笑顔・笑顔！

お祝いとお礼の固い握手が交わされ
子どもたちは堂々とアーチをくぐっていく
今度は
大きな仕事をやり終えた後の
満足した笑顔で

胸を張って幼稚園を巣立っていく子どもたちには、「あれもこれも、もっと一緒にやりたかった」という担任としての後悔や、もう少し引き留めておきたいという願いは似つかわしくないと知りながら、心のどこかで喜びと安堵に寂しさが混じり合う。

ともあれ、二十三人の今日これから始まる新しい一歩に、心から乾杯！

（中央区立月島第一幼稚園）

☆この連載は今回で終わります。